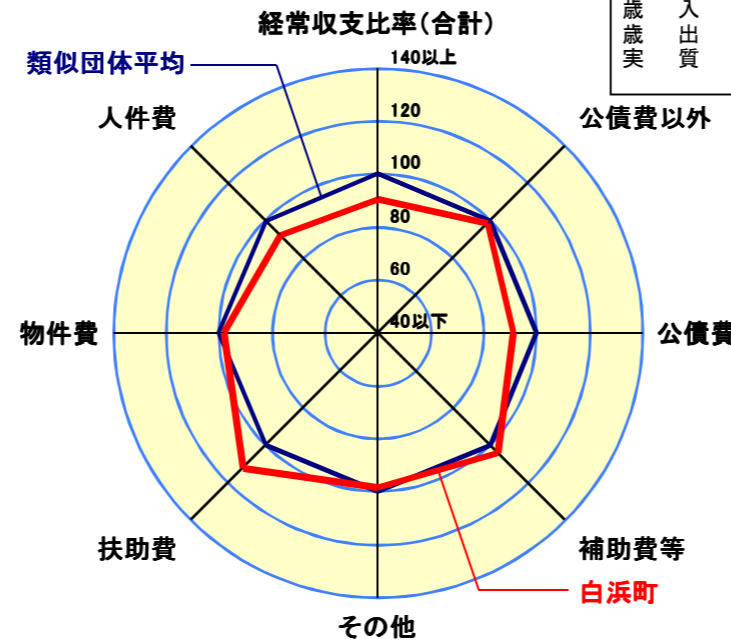
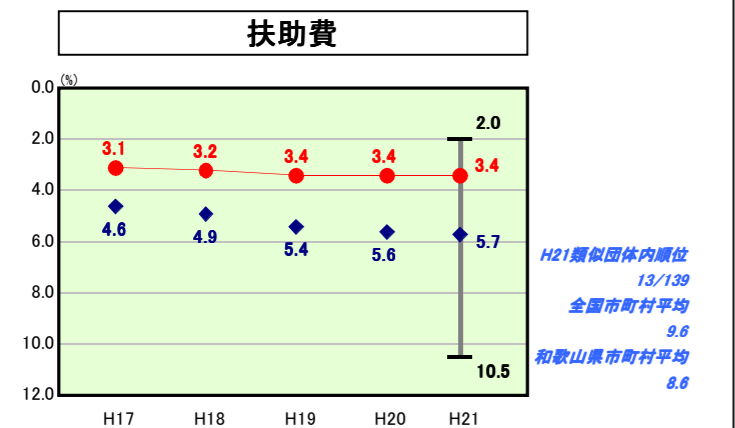
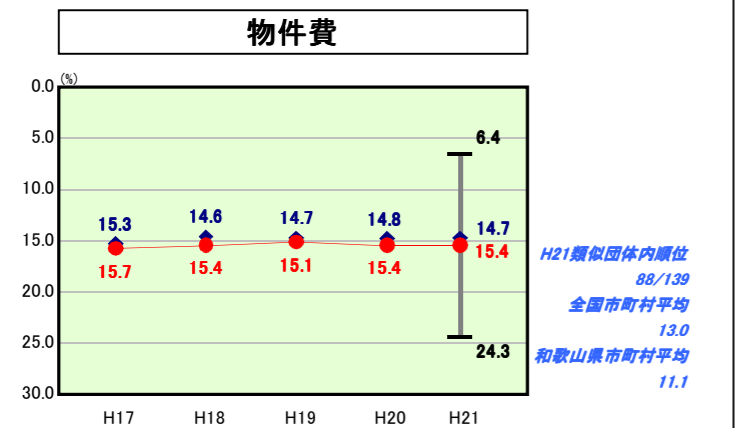
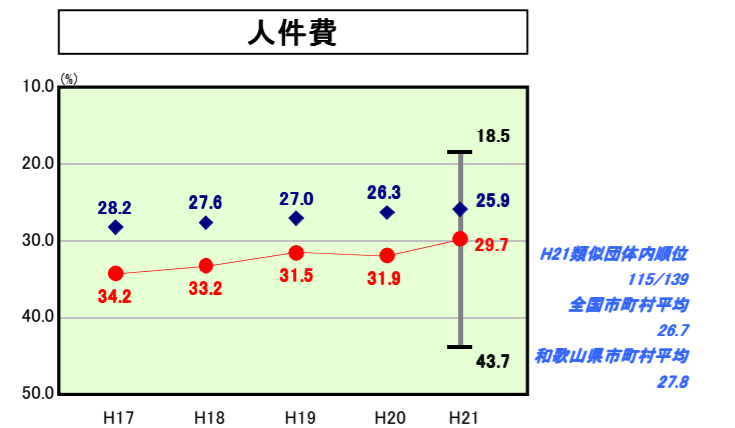
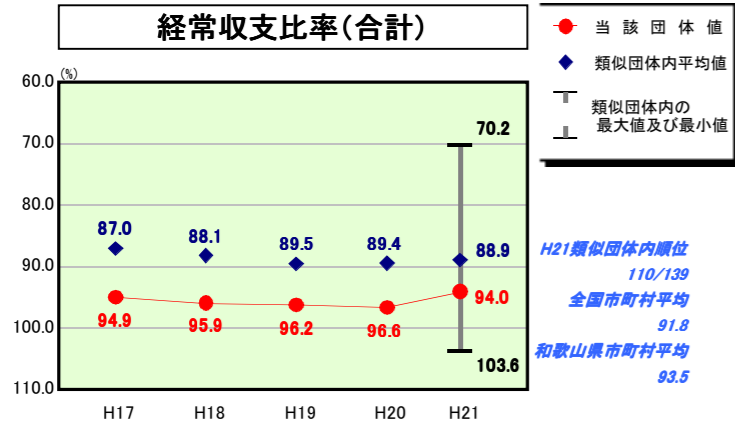


歳出比較分析表(平成21年度普通会計決算)

経常収支比率の分析

人面標準	23,600人(H22.3.31現在)
口積	201.04 km ²
標準財政規模	6,989,905千円
歳入総額	12,489,823千円
歳出総額	12,106,440千円
実質収支	229,321千円



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【経常収支比率】
 94.0%と昨年度より2.6%の改善をしたが、類似団体と比較しても依然として高い数値を示している。主な要因としては、町単独で実施している清掃業務などの人件費、物件費、維持管理費が類似団体に比較して多額となっていることが大きく、下水事業や簡易水道事業特別会計への繰出金の増加なども、比率を高くしている要因の一つとなっている。財源の確保を図ることは重要ではあるが、景気の低迷により税収の伸び悩みは今後も続くものと考えられ、歳出面で経常経費の削減を行い比率の抑制に努める。

【人件費及び人件費に準ずる費用の分析】
 類似団体の中でも目立って人件費が高いのは、当町が関西でも有数の観光地であり、町営公衆浴場や公園などの施設数が多く、人口規模以上の様々な行政需要に対応するために職員数が増えているためである。また、消防業務に関して隣町の消防業務を受託していることなども職員数に影響を与えている。今後も白浜町職員適正化計画に基づき、事務事業の見直しや庁内組織の再編成、民間委託の推進等を進め、適正な定員管理に努める。

【公債費及び公債費に準ずる費用の分析】
 人口1人当たり決算額が類似団体平均20,584円に対し、33,686円と上回っている。これは空港建設に伴う清掃センター、斎場、最終処分場建設のための起債に加え紀南病院移転や富田川衛生施設組合に対する公債費負担金も多くなっているためである。また、合併特別債の元金償還も本格的に行われるため、公債費等の増加が今後予想される。

【普通建設事業費】
 平成21年度においては消防庁舎建設事業や公営住宅建替事業といった大型事業が複数あったため普通建設事業費が大きく増加したものである。今後も学校施設耐震化や国体会場整備などの大型事業が予定されているが、その事業の緊急性・必要性などを十分検討し、また、可能な限り事業費の縮小を図りながら、計画的な町づくりを進める。

